

第129号

平成24年10月1日発行
 発行所
 長崎大学玉園同窓会
 〒850-0029
 長崎市八百屋町36番地
 ☎095-824-5494
 発行人
 小川大天
 (株)昭和堂

生きる力を育む授業を

玉園同窓会 理事 木村 晃 一



失敗して学ぶ

小物作りが好きで時々挑戦する。春休みに鉋を使って削材を割っている、三年生の孫が自分もしてみたいと言いつ出した。興味をもつことはいいことだと、刀の当て方、手の添え方等々細かい注意を与えて取り組ませた。上手にできたよるこびから興にのり少々大胆になつて来た。案の定、刀がとんで指を切ってしまった。大量の出血といったさに大あわて。早速病院に直行。幸い、指がとばず、五針は

ど縫ってことなきを得たが、親に申し訳なく、謝ることしきり。

体験の足りない若い父親

退職後、幼稚園教育にかかわる機会をいただき、若い父母の子育てに間近に接して来た。幼稚園では親子で取り組む活動が多くとり入れられる。六月には父の日になんで父と子のふれあい活動が組まれる。わが子のためにオモチャ作りに全力で取り組む父の姿は美しい。ところが、小刀、鋸、鉋などを使う父親の手つきを見て驚く。小刀の使い方、鋸の歯の使い分け、鉋の歯の調節等々、つい口出ししたくなるがじつと我慢。ドキドキ、イライラしながら。

義務教育のあと高等教育まで受

けている人がほとんどの現在の父親。まさに口は上手であるが道具を操って物を作ったりする「生きて働く力」は案外定着していない。

本物の授業を

生活科が導入されて二〇年近くなる。生活科導入のねらいは、低学年の頃から、自らの手足を駆使して育てたり、作ったり、組み立てたり等の活動に取り組ませ、発見、成功等の喜び、驚きを味わうことにあった。活動内容も子どもの身近な地域素材に目をつけ、教師の創意工夫で教材化し、教科書なしでスタートした。ところが教師個々の創意工夫が大変、負担増に耐えられない等の理由で共通教材が要求され、教科書導入につながり、今日は画一的内容になっている。

先日、全国学力テストの結果が発表され、理科の落ち込みが指摘されていた。理科離れが言われて久しいがなかなか理科好きの子は増えない。先生方も理科の授業が好きでない人が多いらしい。小学校の教師は理科指導も含めて教員免許をもらっているのであるから全員が理科の本質にあった授業が出来る努力をしなければならぬ。

理科の授業は、子どもが問題を意識し、予想をたて、実験、観察

を通して検証し、結論を導き出すという過程が原則である。この過程で、一人一人が調べたり、比べたり、実験・観察したり等の活動を通して結論に到る展開がなされれば興味、関心も増し、毎時間が待ち遠しくなるはずである。

現状を聞くと、理科の授業は担任がすることは少なく、専科が多いとのこと。しかも教頭が専科を担当している学校が多いらしい。忙しい教頭職の片手間に、準備もそこそこに予備実験もすることなく黒板実験ですませる理科授業であれば、面白くもなく、満足感も興味もわくはずがない。

真に「生きて働く力」は毎時間本物の授業を積み重ねることによって培われていくはずである。

失敗をばねに

春休みに鉋で怪我した孫、四年生になった六月によく完治した。「いたかったけどよか経験した。じいちゃん、ごめんね、ありがとう」と言うではないか。夏休みには竹を割って竹トンボを作りたいと言う。怪我のいたさをばねに、工具の扱いに留意し、自らの手で作る喜びを味わえる子に育ってほしいと願っている。

主題

「今、我が校が取り組んでいること」

各学校は、新学習指導要領の理念をふまえ、自校の特色ある教育課程を編成して、教育の再生に向け、日々の教育活動を展開しているところだと考えます。

小学校においては、学習指導要領全面实施から二年目を迎え、一年経過仮仮をふまえた成果や新たな課題等が、少しずつ見えてきているのではないだろうか。

中学校においては、本年度四月より全面实施に入り、実践と評価をくりかえしながら、教育活動が展開されているものと考えます。

また高等学校におきましては、次年度からの完全実施を目前にひかえ、最終年度の取り組みを進めながら、諸整備が整いつつあると考えています。そこで、同窓会におきましても、各校種の現状をふまえ、表記主題を掲げました。

本年度一年間、一二九号・一三〇号において、各学校の取り組みの現状を紹介し合い、「知識基盤社会」といわれる時代を切り拓いていく、教育の在り方に向けた研修の場にしたいたいと考えました。

各学校におかれましては、三校の取り組みを自校の取り組みと重ねられ、これからの取り組みの参考にしていただければと考えています。

「校長先生、よばれまっせ。」



松浦市立青島小中学校長 白濱 忠昭

ラジオ体操後、公園の草刈りをしていたところ、地域の方に声をかけられました。手を休めて近づく、朝採りのスイカが準備され、しばしスイカを片手に井戸端会議。昔話を含め、地域の方々の学校に対する熱い想いを聞くことができました。

赴任した松浦市青島は、面積〇・九平方キロメートルの小島に、約九十戸、約二百六十名の方が住んでいます。学校は、明治八年、学制発布後間もなく創立された事実から、当時の島民の学校に対する熱い想い、教育への期待が伝わってきます。この想いや期待は今も引き継がれ、全島民がPTAの準会員に登録し、学校・教職員、そして子どもたちを優しく、温かく包みこんでくれています。この恵まれた環境の中で、子

もたちは、素直で優しく育っています。しかし、少子化の傾向は否めず、現在小学生十一名、中学生四名の完全複式・極小規模校です。この現状は真摯に受け止めながらも、プラス思考ととらえ、「共にみんな」というキーワード（合言葉）を掲げ、学校経営をスタートしました。「共にみんな」というつながりを大切にした取り組みを展開することにより、子どもたちは、より多くの人とふれあい、発表の場が増えたり、交流の輪が広がったりすることが期待できます。また、取り組みの企画・運営を通して、教職員の団結力、地域との結束力を高めることも期待できます。具体的には、「共に」の対象別に次の三つに分類できます。

① 学年間・小中間のつながりを大切にしたい取り組み

- ・ 朝のあいさつ運動
- ・ 地域の史跡や海岸の清掃
- ・ 砂の造形展 など

砂の造形展では、小中縦割りや二班に分かれ、中学生のリーダーシップのもと、それぞれに役割を

担い「宝の浜」の海岸で砂の造形に興じます。

② 他校等とのつながりを大切に
した取り組み

・地元保育所との交流

・島外鷹島小との交流

・純心大学との交流 等

地元保育所との交流では、花見

や節分時期に相互交流し、歌や踊り等、学習の成果を披露します。

子どもたちが自信を付ける場となっています。

③ 地域とのつながりを大切にした取り組み

・学社融合運動会

・学社融合文化祭

・水産教室 等

学社融合運動会では、保育園・

婦人会・青年部・消防団等、各種

団体と実行委員会を立ち上げ、合

同で開催します。島あげての会で、

学校理解や児童生徒理解を深める

場ともなります。

極小規模校であっても、学校の

中で、更には家庭・地域と協働な

がら「共にみんなで」連携・協力

することで、島をあげて、子ども

たちに「生きる力」を育むことが

できると信じています。そのキー

パーソンとして、今後も率先して

地域行事等に参加し、共に考え、

共に笑い、共に汗を流していく所
存です。

校長として思うこと



時津町立時津中学校長 山津和則

本校に赴任して三年目を迎えた。

その前に、同町内の鳴北中学校に

三年間勤めていたので、時津町は

六年目である。お陰様で、町内の

地区名と位置関係はだいたい把握

することができた。地区の会合な

どに顔を出し、自己紹介をする時

は、「今、時津町内で最も顔が売

れている校長です。」などと戯け

ている。

時津中学校は、今年度で創立六

十五年目を迎える伝統校である。

現在、生徒数六百二十四名、全十

八学級、教職員総勢四十二名。昨

今の少子化傾向からすると、大規

模校といえるのかもしれない。連

接校である時津小学校、時津東小

学校の在籍児童数を見ると、今後

しばらくは、六百名以上の生徒数

を維持していくことが予想される。
かつては、県内でも「指折りの」

荒れた学校として名を馳せたが、

教職員や保護者、地域社会の努力

により、現在では、生徒たちが安

心して学校生活を送れる落ち着いた

学校になっている。以下、この

二年余りで手がけてきた拙い実践

や思いを紹介し、同僚や先輩諸氏

の御批判、御指導を賜りたい。

一 思いや理念は熱っぽく

リーダーとしての条件の一つは、

トップとしての思いや教育への理

念を職員に繰り返し熱く語ること

だと考える。教育とはどのような

営みなのかという大前提はもちろ

んのこと、生徒指導とは何なのか、

教師の放つ「言葉」がいかにか児

生徒に対して大きな意味を持つの

か、また、学校の抱えて立つ地域

に顔を向けるというのはどんなこ

となのか等々を、あらゆる機会を

見つけて語ることであると考える。

時津町の夏の風物詩に、「町・

中学生ペーロン大会」がある。こ

れは、町内の各地区と中学校二校

が、それぞれ得意地と名誉を賭け

て争う熾烈な海の闘いである。七
月中旬の三連休。土曜日に海上練

習をして、日曜日に本番。職員に

は二日間のボランティア参加をお

願いする訳だが、時津中学校の学

級づくりを端的に町民に披露する

絶好のチャンスと説き、レースに

出場する二・三年年の所属職員は

ほぼ全員顔を見せ、指導・応援に

当たってくれている。地域に顔を

向ける一例だと言えよう。

二 仲間意識を生むために

俗に「不易と流行」という言葉

があり、学校は、その土壌的性格

からして「不易」の部分がないへ

んな大きいと思われる。しかし、変

化の激しい今日の社会では、学校

も内外の環境の変化に無頓着では

いられない。個人情報取扱いし

かり、保護者の対学校観、教師観

の変化しかり、また教師集団（職

員室）の変容しかり……。あらた

めて、教育界も変わったかと思っ

て、そのような中でも、学校は学校

としての総力（学校力）を発揮し、

時代や外部の要請に応えていきた

い。そのためには、日々の業務の

本質は何なのか（何のためにこの

教育活動や行事はあるのか）を本

音で、互いに向き合っていると思

う。本音で向き合えば、自ずとそこ

で自分の教育観や人生観を語らず

はいられない。そのようなことを
通して、互いに仲間であるという

意識が生まれ、組織でことに当たるといふ姿勢がつけられよう。

三 いい学校の条件とは
いい学校とは、問題の起きない学校のことではないだろう。問題はどんな学校にもあるし、またどんな学校にも起き得る。要は、問

題が発生した時、その問題を解決しようという空気と、問題解決のスキルを教師集団が持っているということではないだろうか。そんな学校を目指したいとひそかに思っている。

試験及び2次試験まで対応でき、文Ⅱコースでは商業科目も開講し検定試験を受験する等実践的な取り組みをしている。

少人数授業を実施し、生徒の学力に即した個別指導や添削等きめ細やかな指導を行うことで、学習内容の定着、学力の向上を図っている。

三 地域との関わり
地元における若者の減少のため地域で開催される各種行事には生徒・職員ともに積極的に参加し、地域の活性化に大いに寄与し、活力になっている。実践教育として活用し、推進している。

小規模校の強みを生かして

長崎県立宇久高等学校長

林 田 亮



本校は、五島列島最北端の宇久島にある島内唯一の高校である。

成二十年から小中高一貫教育を本格実施している。「夢を育て夢を実現させる教育」を研究主題として、国語・算数(数学)・英語を重点教科として学力向上を図り、十二年間を見通した進路指導の充実に向けて取り組んでいる。

二 小中高一貫教育の推進
小中高の「学びの連続性」を高めるため、小中高の教職員が相互に「乗り入れ授業」や「つなぎ授業」等を行い、小中高の円滑な接続ができるようにしている。

これまでも地域の教育力は高く、学校の教育活動に対しては理解と協力が得られている。児童生徒の規範意識も概して高いといえる。しかも学校が好き、仲間が好き、宇久が好きという児童生徒ばかりである。

地域の過疎化は避けられず、島内の児童生徒は激減しており、今後その傾向は続く。それでも、恵まれた自然環境の中で育まれた生徒は素直で純朴であり、伸び伸びと学び、生き生きとした学校生活を送っている。保護者や地域も協力的であり、学校に対する信頼や期待が伺える。

一 進路指導の充実・学力の育成
大学進学と専門学校・就職等進路志望に対応できるように、コースを分け、教育課程もその特性を生かせるよう編成している。理・文Ⅰコースでは大学入試センター

歓迎遠足・海岸清掃・体育大会等の(小)中高合同行事を通して幅広い年齢集団の中でのコミュニケーション能力を育成している。併せて、他に対しての優しさや思いやりの心を育み、リーダーシップを培うべく指導している。

これから島の子は島で育てるべく、地域に根ざした活力のある元気な学校であり続けられるよう努めていきたい。

宇久地区は平成十三年に連携型中高一貫教育を導入し、さらに平

路志望に対応できるように、コースを分け、教育課程もその特性を生かせるよう編成している。理・文Ⅰコースでは大学入試センター

リア教育を児童生徒の発達段階に応じて行い、様々な進路学習を通

特別支援教育

特殊教育から特別支援教育へ

長崎大学教育学部附属特別支援学校長 池田英俊



和二十三年四月から行われるようになった。

養護学校の義務制については、昭和四十八年に、昭和五十四年度より実施するという政令がだされ、訪問教育（小・中学部）も含めて開始された。（長崎大学教育学部

戦後、障害のある児童生徒の教育については、昭和二十二年に制定された「学校教育法」に第六章「特殊教育」が設けられ、学校教育において、明確に位置づけられることとなった。同章七十一条から七十四条で、特殊教育諸学校（盲・ろう・養護学校）の制度が規定され、さらに七十五条では、「小・中・高等学校に特殊学級を置くことができる」と規定された。これらの規定に基づき、盲・ろう

学校の義務制実施（小学部一年生から学年進行）が六・三制で、昭

和二十三年四月から行われるようになった。養護学校の義務制については、昭和四十八年に、昭和五十四年度より実施するという政令がだされ、訪問教育（小・中学部）も含めて開始された。（長崎大学教育学部附属養護学校が開設されたのは昭和四十六年度であり、昭和四十七年度には高等部が設置された。長崎県内において知的に障害のある児童生徒に対して小学部から高等部までの一貫した教育が最初に行われている。）その後、通級指導教室や高等部における訪問教育の実施等も行われ、障害のある児童生徒への教育が充実していくこととなった。

このように児童生徒等の障害の種類、程度に応じて特別な配慮の

もと手厚くきめ細やかな教育を行う特殊教育が充実していく中で、ノーマライゼーションの進展や障害の重度・重複化・多様化、教育の地方分権等特殊教育を取り巻く様々な状況の変化が生じるようになり、平成十三年一月十五日に二十一世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議から「二十一世紀の特殊教育の在り方について」一人ひとりのニーズに応じた特別な支援の在り方について」が示された。その中では、(三) 障害の重度・重複化を踏まえ、盲・ろう・養護学校等における教育を充実するとともに、通常の学級の特別な教育的支援を必要とする児童生徒に積極的に対応するという基本的な考え方が示された。そして、次のように明記された。

今日、小中学校等の通常の学級に在籍する学習障害児や注意欠陥／多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児等特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への対応が求め

られるようになった。しかし、これについては、特殊教育がこれまで盲・ろう・養護学校や特殊学級等に就学する児童生徒等への教育が中心であったため必ずしも十分に対応されていない。このため、小中学校等の通常の学級に在籍する学習障害児や注意欠陥／多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児等特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に対しても積極的に対応していく必要がある。

この提言は、特殊教育から特別支援教育への転換を図る最初の貴重なものであり、その後の特別支援教育の充実に関する様々な施策へとつながっていくことになる。（次号へ続く）

※引用文献（○特別支援教育ハンドブック…第一法規 ○二十一世紀の特殊教育の在り方について…一人ひとりのニーズに応じた特別な支援の在り方について…前述協力者会議）

わたしの教育実践

よりよい学級経営を目指して

平戸市立田平北小学校 値賀春奈



「道徳と学級活動は、学級経営の基礎となる。」
これは、初任の頃、指導の先生から言われ続けてきた言葉です。教員となって三年目。教育活動の中でも、私は特にこの道徳と学級活動に力を入れています。

私の学級経営の大きな目標は、「それぞれの考えを認め合える集団づくり」です。道徳、学級活動は子どもたちの感じたことや考えたことを認め合える絶好の時間である、と私は考えています。

道徳においては、年度初めに、教室の目の届くところに、低・中・高学年ごとに示されている価値項目を掲示し、一年間でどんな心を耕していくのか、子どもと共通理解できるようにしています。価値葛藤を主においた授業を実践し、毎時間、子どもたちの心を揺さぶるようにしています。その揺

さぶりを深めるために、子どもたちの実態に合わせた自作資料を用いるとともに、BGMを流し、温かな雰囲気の中で授業を進めています。今後は耕した心をいかに、生活に結びつけていくかが課題です。

また、学級活動においては、計画委員会を立ち上げ、週毎に決めた計画委員のメンバーで、学級会で話し合う議題を選定し、話し合いの準備・進行・実践・振り返りを、最後まで責任を持って行うよう、休み時間などを活用しながら進めています。

「道徳と学級活動は、お互いの考えを自由に聞き合う時間である」と知ってから、徐々に感じられることを自分なりに素直に伝えられるようになり、今では、担任がほとんど口を出すことなく、授業が進んでいます。家庭・地域とともに、子どもたちを育てていけるよう、授業後はその内容と子どもたちの感想を学級通信に載せ、お知らせするよう努めています。これらの活動によって、お互いを認め合える学級に一步步近づいている手応えを感じています。今後も、よりよい学級経営を目指し、力を尽くしていきます。

子どもとつながる日記指導

対馬市立仁田小学校 齋藤 久美子



「生まれ育った対馬で小学校の先生になりたい。」

そんな夢を抱きながら長崎大学で学び、そして教師の道を歩み始めて十数年がたちました。思い悩むことも多くありますが、子どもたちのとびきりの笑顔や真剣な眼差しを見つめる日々、やりがいと幸せを感じています。

これまでの教師生活において継続して行ってきたものに、日記指導と、暗唱指導があります。授業ではじっくりと取り組むことができないこの二つを、学級経営の一つとして位置づけてきました。特に日記指導は、子どもの心の揺れ動きや、家族や友だちとのつながり、生活の様子を少しでも理解できればという思いから始めたものです。今では、会話とはまた違う角度からの絆づくりとして、私の学級経営の大きな柱になりました。ある日のMさんの日記より：

「今日の夕方、庭でとなりの家のネコと遊びました。ネコの名前は○○です。○○の毛は、白と黒の色がまざっていて長い。さわるとわたみたいにつわつわしています。久美子先生もネコが好きです。さね。いつかさわりにつきてください。かわいいですよ。」

子どもの日記を読みながら、ニコリしている自分がいます。そして、すかさず返事を書きます。誤字があれば訂正し、やり直しをさせてから下校となります。

たった四行、五行の短い日記ですが、一年間続けることで子どもが豊かになっていくことに気づかれます。それに伴って、私の返事も長くなっていくのです。そして三月、「二年間の日記が詰まったこのファイルは、あなたの成長の記録よ。」という言葉添えて子どもに返却し、学級を閉じます。何気ない日記のやり取りですが、それが子どもと私をつなぐ糸を紡ぎ、だんだん太く強くなると信じています。いつまでもこの信念をもち、ていねいに、ひたむきに子どもとつながっていく教師をめざしていきます。

的山大島を大きな財産に

平戸市立大島中学校 宮崎 桂子



教職十一年目の今年四月、私は的山（あづち）大島にある平戸市立大島中学校に着任しました。

大島中学校は全校生徒三十八名の小さな学校です。私が受け持っている一年生は十一名。前任校では三十四名を担任していたので、最初は戸惑いました。しかし、今では全校生徒の担任という思いで接しています。

これまで長崎市内の経験しかなかった私にとって、的山大島の生活は自分自身を変える転機となりました。

私自身が一番変わったと感じるのは生徒への接し方です。前任校でも、一人一人に全力で向き合ってきたつもりでしたが、的山大島で生活してみると、自分が思う以上に子どもたちとの距離が近くなっていることに驚かされます。

学校唯一の運動部であるソフトテニス部の練習はもちろん、全校生徒で取り組んでいる朝の陸上練習にも参加して私も一緒に走りまわります。運動が得意でない私は走るだ

けで精一杯ですが、そんな私に生徒たちも走りながら応援の言葉をかけてくれます。

夏休みには子どもたちに誘われるまま、地元の海で海水浴をしました。子どもたちはプールよりも海の方が好きで、飛び込みをしたり、潜ってサザエやミナなどをとったりして楽しんでます。海水で洗って、磯で食べるウニやミナは格別です。

様々な活動や遊びの中では、学校の授業だけではわからない、生徒一人一人の良さや能力を見つけていけることができます。素直で人なつこい的山大島の子どもたちだからこそ、私を受け入れ、一緒に過ごしてくれるのだと思います。

この春、島唯一の高校であった猶興館高校大島分校が閉校しました。生徒は中学校卒業と同時に的山大島を離れ、本土の高校へ進学することになります。それまで生徒たちと過ごせる時間はわずかです。それでも私にできる限りのことは伝え、子どもたちのこれから

の人生がより豊かなものになるよう全力を尽くしていきたいと思っています。

そして、私にとっても的山大島での時間が大きな財産となるような日々がなばっていききたいと思っています。

「テレビ学習塾」制作を通して

対馬市立難知中学校 平間 博人



対馬市では平成二十三年度より、

地域のケーブルテレビを活用して、小中学生を対象とした教育番組

「テレビ学習塾」を放映している。

これは、子どもたちの家庭学習の

一助となればという、対馬市教育

委員会の発案によるもので、算数

と数学の内容で年四十回の放映が

計画されている。

私にとって、この番組制作のプ

ロジェクトチームに声をかけてい

ただいことは、自分自身の数学教

育を見つめ直す大きなきっかけと

なった。

番組制作は、一つの単元をしっ

かりと分析することから始まる。

「子どもたちが苦手なところはど

こか？きちんと押さえるべき内容

は何か？分かりやすい方法は？」

その話し合いの中でも様々な意見

が出される。今までもあまり深く考

えなかったところも、議論を繰り

返す。この議論がとても面白いのだ。同年代の先生と意見を出し合うことで、これまでの指導を振り返ることができる。また経験からくる先輩方のお話もとても勉強になる。恥ずかしながら、自分の指導の浅はかさを露呈してしまうこともある。

私は、テレビ学習塾の中の「数学コラム」を主に担当している。数学博士「ツシマス」に扮し、数学の歴史や興味深い活用方法について、紙芝居形式で話をする。子どもたちに数学の魅力を伝えたいと思いついた案を考えるのだが、私自身が数学の面白さを再発見してしまう。古代数学者の発想に感動し、事象の中に隠された数学にまた感動する。自分が「数学」に携わっていることに、大きな誇りさえ生まれてくる。

放映後は毎回、子どもたちから様々な反応が返ってくるのが嬉しい。番組制作の中で学んだことは、今後の私の教員人生において大きな財産となると思うと同時に、私に声をかけていただいたことに、とても感動している。

母校だより

日弁公 編

地域における

教育学部

長崎大学教育学部長 山路 裕昭



(1) 教員の養成

長崎大学教育学部は、小学校、中学校、幼稚園、特別支援学校の教員を養成することがその第一の使命である。実際に、長崎県内を中心に、本学部の多くの卒業生が優れた教員として活躍している事実は、既に多くの皆様がご存じの通りである。

しかし、教員の養成は、時代によって同じではない。教育実習を含んで必要な単位を取れば、卒業時に教員免許状を取得でき、比較的容易に教員になることができた

時代もあったが、現在は、より高度な実践的指導力を備えた教員が求められる時代となっている。

このため本学部では、地域の学校におけるさまざまな実習を組み入れた教育課程によって、学生たちの実践的指導力の育成を図っている。しかし学部における講義等と実習との連携は必ずしも十分ではなく、教員養成教育全体の質的向上が求められている。

(2) 地域教育界への支援

地域の学校に優れた教員を輩出すると同時に、本学部は、地域の教育界に対して、例えば学校における研修会への講師派遣等の、直接的な支援も行っている。

そのような地域における活動は、平成二十三年度の場合、百件以上に及んでいるが、支援分野や担当教員が一部に限られている等の問題もある。その背景には、本学部教員の研究分野や活動領域に関する情報が必ずしも十分に地域において知られていないこと、また逆

に、地域の学校におけるニーズを我々が十分に把握できていないこと等が指摘できる。

(3) 附属学校園の役割

本学部の附属小学校、附属中学校、附属幼稚園、附属特別支援学校は、教育実習は勿論、毎年公開研究会を開催し、研究活動にも積極的に取り組んできた。

しかし、文部科学省より平成二十一年に出された「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」では、附属学校園における研究に大学・学部の研究方針とは無関係なものが多く、また教育実習では大学・学部が附属学校にまかせっきりになっていること等が指摘された。さらにこの文書の中では、これからの附属学校は、先導的・実験的な取組を実施し、「拠点校」として国の教育政策の推進に寄与すべきこと、そして地域の教育の「モデル校」として地域の教員の資質・能力の向上や教育活動の一層の推進に寄与すべきことが求められた。

附属学校園に課されたこれらの課題を解決するために、附属学校園と学部が連携し、地域教育界の意向をも十分に考慮しながら、協力して教育実習や研究、地域貢献

に取り組むことが必要である。

(4) 地域文化への貢献

従来から、本学部の芸術分野の教員や学生たちは、例えば演奏会、展覧会等を通じて、地域の音楽や美術の振興に貢献してきた。また、自然科学系の教員や学生たちは、例えばサイエンス・ワールドにおいて、毎年、多くの子どもたちの自然や科学技術に対する興味・関心を喚起してきた。

このような中で、今年特筆すべきは、音楽ホール「長崎創楽堂」のオープンである。教育学部音楽棟の改修工事に併せて設置されたもので、スタインウェイ&サンズのピアノを株式会社十八銀行からご寄贈していただいた。席数は百。六月七日には、オープン記念コンサートとして、小曽根真ピアノライブが開かれた。今後も「長崎創楽堂」では毎月音楽イベントが開かれ、地域の皆様に公開される。

(5) おわりに

長崎大学教育学部は、地域とさまざまなにかかわりながら発展してきたが、既に述べたような課題もある。今後、地域のニーズを適切に把握し、学部・附属・地域教育界の連携・協働を積極的に実現していくことが必要と考えている。

長崎大学 教職大学院紹介

長崎大学教育学部副学部長 綿巻 徹

●教職大学院とは

教職大学院は、高度専門職業人の養成としての教員養成に特化した専門職大学院で、この制度は平成二十年度から始まりました。そのねらいは、学ぶ意欲の低下、社会意識・自立心の低下、いじめや不登校など学校教育の諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員を養成することにあります。

●設置の沿革

長崎大学教育学部及び教育学研究科は、これまで目指してきた地域教育界との密接な連携の下で実践力ある教員の養成をいっそう強化するため、大学院教育を見直し、平成二十年度に、従来の修士課程（学校教育専攻、教科教育専攻）を専門職学位課程（教職実践専攻Ⅱ教職大学院）と修士課程（教科実践専攻）の2課程に改組しました。

●本教職大学院の使命

本教職大学院の使命は次の二つです。一つは、学校教育の理論と実践を融合させたカリキュラムをとおして、子ども一人一人の心身の育ちに的確に対応できる能力と

高い実践力を持った現場のリーダーとなる教員と、学校の機能を飛躍的に向上させるマネジメント能力を備えた教員を養成することです。二つめは、教育現場と連携して教員養成を行う中で、社会の変化に対応した教員養成の在り方やその方法の改善について研究を行い、新しい教員養成システムを提案することです。

●各コースが養成を目指す教師像

(1)子ども理解・特別支援教育実践コース…子ども一人一人の個性と教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことのできる高い専門知識と実践力を持ち、人格的にも優れた教員。

(2)学校運営・授業実践開発コース…活力ある学級を作り、効果的な授業を実践できるとともに、円滑な学級経営・学校運営を行うことのできる高い能力を持ち、人格的に優れたスクールリーダーとなる教員。

(3)理科・ICT教育実践コース…児童生徒に対する深い理解と自然環境や科学技術に対する確かな理解に基づき、ICT等を効果的に活用した理科授業を行うことのできる高い実践力を持つ教員。

(4)国際理解・英語教育実践コース…日本社会の国際化に対応するために、英語に関する幅広い知識と高度な運用能力を養うと同時に、

国際理解を視野に入れた英語教育の実践力を備えた教員。

●入学者別の教員養成体制

入学志願者の経歴等に応じて、以下のプログラムがあります。

(1)現職教員の場合（一年プログラムまたは二年プログラム）

教育現場でつかんだ課題や問題の解決に役立つ理論に関する講義と、その解決策を実践、評価するための実習をおしてより高い実践力を身につけるとともに、地域の教育界の充実に貢献できる視点や将来に向けた諸能力を獲得します。なお、一年プログラムが適用されるためには学生募集要項に記載された要件をすべて満たし、入学試験前に開かれる判定委員会

で認められる必要があります。

(2)教員免許状を有しているが教職経験のない学士の場合（二年プログラム）

学部教育で培った能力を、理論的かつ実践的な講義と実習による実践を融合させたカリキュラムによってさらに発展させます。学校教育の課題を深く認識し、その解決に立ち向かえる能力・態度を獲得するとともに、的確な子ども理解、教科等の知識・技能をさらに積み重ねることによって、実践力をより柔軟でより高度なものへ高めます。

(3)教員免許状を有していない学士の場合（三年プログラム）

教育学部の授業を履修して教育の基礎力を獲得しながら、教員免許状の取得資格を得ます。次に、大学院のカリキュラムに沿った形で様々な実践の場を経験して、理論と実践を融合させ、柔軟で高い実践力を獲得します。さらに、教育現場の諸課題についての知見を深め、それらに自主的に取り組むことのできる能力を獲得します。

●この間の取組

教育課程として編成された種々の講義、演習、実習のほかに、時間割外の時間帯に各コースの学生、研究者教員、実務教員が合同で、学生が進めている教育実践研究を報告、議論し合うクロスセッションを定期的に実施しています。

平成二十二年度からは、本教職大学院の取組を地域に開かれたものにするために、「教育実践と省察のコミュニケーション」を公開開催しています。これまで、「授業実践力、教育実践力とは何であり、何であろうとするのか!」、「小中学校・高等学校における特別支援教育の現状と展望」、「中学校・高等学校における英語読解指導について」をテーマに、ゲストスピーカーの講演や学生のパネル発表も含めて、教育の現代的課題を活発に討論しました。

おたっぴやだより

東京支部の仲間と共に

東京都世田谷区 坂井 治子

(昭和四十四年卒)



本年度は時期を早め、六月二日大田区蒲田のブライダルパレス「アペア」で定期総会及び懇親会を開催しました。

今回は、森田圭子さん(四四卒)のミニコンサート(独唱)に酔いしました。また、師範(二三年卒)鈴木末治さんには「長崎被爆体験」の講演をいただきました。

師範本科一年・学徒動員中での被爆体験を、小・中学校で講演している話をうかがいました。鈴木さんは、戦後から現在まで後遺症

で苦しんでおられます。更に他の方々の学徒動員中の戦争体験をお聞きし、戦後生れの私は平和のありがたさを再確認しました。

私は学園紛争で火災びん、角棒、赤・白・青ヘルの闘争の中で学園正常化を叫びながら卒業しました。

上京し、目黒区立緑ヶ丘小学校勤務から退職するまで、「人はどうあるべきか」を問い続け、道徳生活科・総合学習と体験を重視し、子どもたちには「自我独立」をモットーに指導してきました。

今後は、師範から続くこの玉園同窓会を誇りにし、活動を広げることに努めています。

会員の文化活動(研究授業・講演会・コンサート・展覧会)のお知らせ、研修会、親睦会を開催していきます。

九月には、浅草散策を実施します。様々な活動を通して会員の増加を図りたいと思います。それではみな様から東京在中の卒業生の情報をお寄せ下さい。

感謝しながら

福岡県小郡市 原口 重利

(昭和五十三年卒)



李白「牀前看月光／疑是地上霜／举頭望山月／低頭思故郷」(「静夜思」)

退職をしたら、故郷を思いつつ、それこそ李白の如く、山月を眺ながら一人静かに酒でも呑もうかなどと思っていましたら、とんでもない間違いでした。世の中、そんなに甘くありません。現在、退職後一年だけという約束で、教育委員会に勤務しています。結局、退職前と同じく朝から毎日仕事に行っているわけです。仕事内容は講話をしたり、そのための原稿を書いたり講座の企画・運営をしたりと結構忙しいのです。暇はありません。しかし、定年退職まで勤めることができたことには感謝し

ています。在職中は比較的熱心に教育実践もしてきました。学級経営も楽しくやれました。研究主任や教務主任もしましたし、教頭・校長も経験しました。退職と同時に、付き合ってきた同僚・友人・教え子たちが次から次へと退職のお祝いを催してくれています。これにも感謝です。異国情緒の街並みが気に入り、たっぷり絵を描こうと思って長大に入学しました。しかし、自分で納得できるような絵は描けませんでした。卒業の時は中学校と高等学校の美術の免許しかなく、当時採用枠もほとんどなく、結局、認定試験を受け、そのまま定年まで小学校で勤務しました。三つの小学校で校長をしました。それぞれの学校で図工の授業に入ったり、子どもと一緒に絵を描いたり楽しい校長生活を送らせていただきました。退職して思うことは、本当にたくさんの人との関わりの中で、成長させてもらったということですね。全ての人々に感謝しています。人との関わりの中で、これからも好きな絵を描き続けていきたいと思っています。「分け入っても 分け入っても青い山」(山頭火)

剣道と グラウンド・ゴルフ

対馬市 吉田 順

(昭和三十八年卒)



私は長崎大学に入ってから剣道を始めました。それから今日まで、五十三年間続けています。卒業した年に小中学生の剣道クラブを作り、指導を始めて四十九年になります。転勤した先々の学校でクラブを作り、一緒に稽古をし指導してきました。たくさんさんの剣道仲間ができましたし、立派な指導者になっていく者もいます。

私の剣道の稽古は、火曜日の夜は大人を中心に、土曜日の一時半からは小中学生を、仲間と共に指導します。場所は市立の日新館という道場です。普段の稽古は、車で十分位の所にある山の中の公園です。木刀や竹刀はもちろんです。自分が作った用具も使っています。季節にもよりますが、小

鳥や虫の声を聞きながらの稽古です。夜稽古をする時は、鹿や蜚が遊びにくてくれることもあります。

日本剣道形や基本技の稽古が中心です。一人稽古ではありませんが、楽しいものです。その稽古が、大人との稽古や試合、また子供たちの指導に役立っているのです。

グラウンド・ゴルフは、始めて十一年目になります。六十歳以上の仲間たちです。十名位で始めたクラブも、今では二十五名にもなっています。ゴルフを元にしたスポーツですが、高齢者には最適なのだと思います。お外からでちょうどよい運動量になっています。年令や男女による差もあまりありません。暑い日も寒い日も、休む人はほとんどいません。週二回の練習ですが、みんなその日を楽しみにしているし、楽しいひとときを過しています。

剣道とグラウンド・ゴルフ、そしてその仲間たちは、私にとって宝物みたいなものです。剣道は市協会の、グラウンド・ゴルフは町協会のお世話役をしています。今後とも、剣道やグラウンド・ゴルフの仲間たちと楽しく過ごせるように、また充実した生活にも役立てたいと思っています。

独り立ちを目指して

長崎市立土井首中学校 宿輪 智子

(情報文化教育課程 平成二十二年度卒)



情報文化教育課程情報メディア

コース平成二十二年度卒業生の宿輪智子と申します。現在は長崎市立土井首中学校事務職員として日々仕事に邁進しております。土井首中学校の立派な先生方や元気の生徒達に鍛えられ、また可愛がられながら毎日楽しく過ごしております。情報文化教育課程は無免許課程のため、私は大学時代に教育実習等を経験していません。従って、昨年度は学校行事に参加することで精一杯でした。一年間を終えてようやく学校の流れを把握できたように感じます。仕事につきましては、私が考えていた事務職員の仕事内容と実際の仕事内容には多少の違いがありました。事務職員の仕事とは、主に先生方

の給与・旅費・福利厚生等の管理手続、教育委員会等からの文書の受付、学校予算管理、学校備品の整備、就学援助の申請手続等です。昨年度は新任研修もあり、新任教員の方々と一緒に野外活動に参加し、先生方の熱意に刺激を受けました。とても幸運なことに、ベテランの事務主幹の先生と一緒に仕事をさせて頂いており、事務職員としてのスキルアップをさせていただいております。通常は一つの学校に一名の事務職員配置になるので、この機会を大切にし、多くのことを教わって独り立ちできればと思います。学校の教育内容が変わると同じように、法律や規則等も毎年のように変わり、その都度事務処理の仕方も変わります。「昨年度通用していたことが今年度は通用しない」などといった事例も多く、毎日勉強しながら仕事を行っていかねばならないと教わりました。今年は中学校研究部の地区リーダーにもなったので、事例研究等にも力を入れていきたいと考えます。学校経営に積極的に参画し、学校の輪を大切に考え、学校に必要とされるような立派な事務職員になれるよう頑張りたいです。

動いています同窓会

平成二十四年度 図書購入費助成校

特例社団法人長崎大学玉園同窓会は、長崎県内をはじめとする教育の振興に寄与することを目的としております。今年度から「図書購入費助成」の事業を行っていきます。

本年度は、左記の学校に助成を行いました。

小学校の部

島原市立三会小学校
校・雲仙市立北串小学校・南島原市立深江小学校・新上五島町立上郷小学校

中学校の部

長崎市立桜馬場中学校・椿原中学校
佐世保実業高等学校

高等学校の部

お礼状

（一部省略）

さて、この度の図書購入の助成のことにつきましては、助成の決定という格別の御高配をいただき、誠にありがとうございました。

この件につきましては、生徒に紹介するとともに、「学



校だより」や「図書館だより」にも掲載し保護者等にもお知らせして、共によりこびたいと存じます。また、生徒の図書室利用者も増加している現状に配慮し、今後は、さらに図書の内容の充実や利用者の立場に立った活用の仕方等に創意工夫を凝らしながら、図書室を通じた教育の推進に努めてまいりたいと存じます。

会長様をはじめ、関係の皆様御健勝を心から祈念申し上げます。お礼といたします。本当にありがとうございます。（佐世保実業高等学校）

教育学部

原爆殉難学生慰霊祭

長崎の街が一瞬にして地獄と化し、七万人を超えた人々を熱線と爆風によって焼死させたあの忌まわしい日から六十七回目の「原爆の日」を迎えました。

八月九日の長崎は、夜明けとともに、祈りと平和希求の誓いを新たにする一日に包まれました。

我が長崎大学教育学部と玉園同窓会も、文教キャンパスにある「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、この地に勤労学徒動員令により、三菱兵器製作所に出動し原爆の犠牲となられた旧長崎師範学校学生・生徒五十四名の御冥福と、平和への願いを込めた、追悼「原爆殉難慰霊祭」を営みました。

まず、学部長・山路裕昭教授の挨拶がありました。次に、原爆が投下された午前十一時二分、原爆で殉難された御霊に黙祷を捧げました。そして、参列された同窓会員及び大学の先生方・職員の方々全員による御焼香を捧げました。

最後に同窓生を代表して永嶋寛延先生から慰霊の言葉が述べられ、

殉難者の御冥福と恒久平和への誓いを新たにし、滞りなく終了することが出来ました。

慰霊祭実施

にあたりましては、大学の職員の方々に

たいへんお世話になりました。テントの設営から献花等の準備そして湯茶の接待まで、心の行き届いた諸準備をしていただきました。大学の職員の皆様心よりお礼を申し上げます。



慰霊の言葉を述べる永嶋寛延先生

個展

「福田寅三郎展」

「表情」の案内

六十七年前の八月九日、長崎で被爆したときに、焦土と化した焼け野が原で、苦しみあえぎまわる多くの人々を目の当たりにしました。そこでは、黒焦げになり息絶えている人、どうにか生きてはいるものの大やけどや髪が抜けたり水を求めまわる人々が群がっているなど、惨憺たる光景でありました。今でも、忌まわしい惨状を忘れることはできません。そのときのイメージをもとに、課題として「表情」というテーマで描きつづけています。

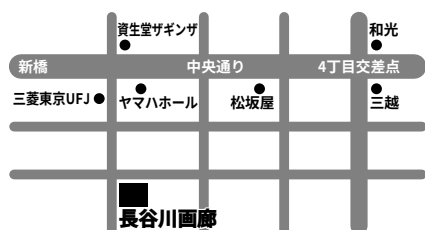
また気分転換に、静物等も描いていますが、裸婦デッサン（コンテ）等も併せて展示したいと考えています。

ほぼ五・六年ごとにささやかに個展を開いているところです。今年にはたまたまその年にあたり、同窓会の意向にそって御案内させていただきます。

期日

場所

十一月二十日(火)～二十五日(日)
長谷川画廊（東京都中央区銀座七ー十一ー十一）



長谷川画廊

東京都中央区銀座 7-11-11

Tel. 03-3571-1462



青春に乾杯

『七つの子』同窓会

代表幹事 桑原 玄治

(昭和四十一年卒)

五月十九日、昭和四十一年三月二十五日卒業の学芸学部小学校課程同窓会が、長崎市で開かれました。同窓会の名称は、純粹無垢な子どもたちを育むことを生涯の仕事にすると決め、そのイメージに相応しい童謡「七つの子」から名付けたものです。

卒業以来、三年毎に実施してきましたが、ここ四年間は、毎年開催しています。卒業して早や四十六年。自分ではまだ若いと思つてはいても、集つた同級生の顔を前にするたびに、年相応の身体つきと表情になつているのを感じ合うのが、同窓会でしようね。それでも、グラスを触れ合ううちに、いつしか大学時代の心に戻つていきます。時間は、過去と現在をない混ぜにしなから、いつまでも話題は尽きません。これからもこんな雰囲気が続いて欲しいと、誰もが思つたことでしょう。

教職を離れても、勤めあげた顔には、未だに現況の教育や、子どもや保護者に対する熱い視線が感じられました。ところで、若い時の同窓会は当

たり前のことだと感じていたが、年を重ねる毎に、参加することと意義を見出しながら、日々の健康管理に努力しているから、不思議なものです。

いつしか同窓会の話題は、年金の目減りに反比例するかのよう、薬の量や通院の回数が多くなつたと、予定された時間は現在と過去と少しの未来を往き来しながら、いつまでも身近にまつわる話題には事欠きませんでした。

この『七つの子』同窓会も間もなく有終の美を飾ることになりそうです。最後まで参加したいものです。



幼稚園

本園では「小学校以降の学びを見通した幼児の学びの探求」という主題で研究を進めている。本来の幼児教育の真価ともいえる「遊び」を通して、子どもが何に関心を寄せているのか等を教師が読み取り、今後の保育の手立てを協議するのである。さらに子どもをより肯定的に見る見取り、つまり、教師が「子どもの良さ」に注目して、観察・記録・分析することにより、その後の保育課題を見出し、同時に環境構成や教師の援助についても研究しながら工夫・改善しているところである。

小学校

教育とは、「人づくり」です。学校では、主に授業を通して「人づくり」が行われます。本校では、

今、附属
校園では

授業というものを、「文化の創造」の場であると考え、日々の実践に取り組んでいます。文化は、人々の双方の働き掛けの中から生まれるものと考えています。「文化」知「だ」とらえたととき、各教科等で獲得する知が、自分本位な解釈に終わらないようにすべきです。そのため、集団の学びを大切にした授業を工夫し、対話を通して、知を言語とその背景と獲得するようにしています。

中学校

附属中学校では、「新たな価値を見いだす学びの創造を主題として一年次の研究に取り組んでいます。そのためには、「九か年を見通した思考力の育成」が不可欠であり、附属小学校や教育学部との連携を強めているところです。また、協働的な学びができるカリ

キュラムの設計やコミュニティの形成、考える力を高める授業の展開という視点から研究を進め、これからの学びの場づくりや指導・評価の在り方を提案し、地域の教育拠点校としての役割を果たしていきたいと思っています。

特別支援学校

本校は、昭和四十六年に長崎市柳谷町の小高い丘の上に校舎を新設し、附属養護学校として開校しました。開校時は、小学部、中学部のみでスタートし、昭和四十七年に高等部が設置されています。創立から四十年以上が経過し、校舎も老朽化が目立ちはじめたため、今年度一杯で耐震化を含めた校舎の全面改修を行うことが決定しました。日程的には厳しいものがありますが、高等部三年生が笑顔で新校舎から新たな生活へ旅立っていけるよう万全を尽くして対応していきたいと考えています。

新会員紹介

平成二十三年卒業生

学校教育教員養成課程

初等教育課程

小学校課程

池田 圭	楠本摩耶子	緒方 詞織
小濱 由起	熊本 清佳	尾山 華那
佐伯 博之	栄村翔太郎	亀井 千尋
近藤 忠信	笹井 菜加	後藤 温子
橋 菜摘美	佐々木洋光	坂田 美希
濱田 晃	佐藤 杏奈	坂本まどか
八坂 美里	早田 優衣	柴田章太郎
渡邊 沙貴	田中 雄貴	杉澤菜美子
赤瀬えりか	永石 静香	田中 成弥
朝野 仁之	中嶋 麻弥	富野 志帆
今井 静	永田 怜沙	中尾 理子
井村 侑加	中野 志保	中武千加巳
岩切陽香里	畑野麻菜美	長野 千里
岩永 輝之	馬場厚太郎	林 由布子
上村 悠華	牧嶋 千尋	林 浩佑
右今 理菜	宮前千代乃	久田 純女
浦田 陽平	海西理恵子	廣戸 梨菜
江頭かな子	森 絵美	松本 拓
岡田 幸子	麻王 佳奈	水田 有祐
柏木 泉	池原健志郎	森 雅
川畑 友佳	今石 夏美	山口 紗貴
川村 美紗	今里 慧太	山下 将貴
木村 祥子	岩尾 勇希	山田 愛美
		湯浅 昭平
		石河 美礼
		糸瀬 琢規
		岩本 僚太
		梅野 恵
		遠藤 大輔
		川内 正金
		久保 優奈

熊本 晋作	甲斐千奈美	庄崎 潤子	(美術科)	桑原 卓也	埋田 真宏
下條 太貴	加川 光紀	田端 寿樹	入江 智佳	中島知奈美	永田 和馬
杉本 優子	柿園 綾香	徳永 智小	大野 愛実	山口 諒介	(芸術文化)
田村美野香	川添 玲	山口真由美	山口 瞳	(家庭科)	岩田 偉
中尾 泉美	川原華奈美	山脇 茜	吉田真奈美	河内 結花	松本 絢子
七山健志朗	小林 弘治	(数学科)	上戸 翔太	田村 真理	(幼稚園)
野中 志保	近藤 優美	蒲原航太郎	山頭 牧夫	廣田 千尋	秋崎 剛
濱田 美紗	佐近奈津実	川崎 敦	坂本 晃	間ノ瀬昌子	安德 千尋
東 百合香	田川 貴明	久保田 諒	江口 貴紀	山本 美咲	北村 真理
平塚 梨奈	田口 貴子	小峰 一成	影井 紫織	吉原 生紗	末富 詠子
三井 清隆	田崎 優希	酒井 理美	小坂 拓哉	(英語科)	杉山由紀子
三谷 佑亮	土井 英華	佐藤由美	米田 彰吾	四宮 昭平	高木 るね
三岳 翔平	渡久地美歌	廣田まり恵	高以来玲子	園田 彩乃	全 サラ
宮本 飛鳥	檜原 未来	古川 大輝	高原 賢之	高尾芽紅美	中間 寛巳
宮城 朋子	南里 香織	(理科)	細田 知里	立石 浩也	濱崎 藍
宮地 知秋	西 望	(技術科)	大原 千治	本多 泰平	上杉 愛
森川 江梨	原口 真実	赤山 大地	片岡 修一	前田 悠太	上園 竜司
吉田 誠也	藤村 駿介	上野裕一郎	養護課程	大下田美帆	齊藤 尚子
渡 美帆	牟田 愛梨	太田真奈美	(特別支援)	杉田 麻紀	島津かおり
井上つばさ	持丸重里沙	塩足 望	井上香菜美	泰地 志織	高田佳世子
今中 一美	森山 愛	田中啓太郎	江口菜穂美	平 千登勢	玉島 育子
上田明可子	彌永 千夏	中村 慧亮	小笠原 梢	津川 初美	中村 成美
浦川 裕貴	山口美喜子	野口 武靖	北山 幸樹	友志津香	野田 愛梨
江崎 美幸	吉田 隆之	平岡真希子	小崎 舞子	本田 範子	橋本 美幸
大浦 理麻	渡邊 優一	福田 亮太	佐藤 昌代	山本 恵美	平島 理沙
中学校課程	(音楽科)	井本 志保	城 拓史	三根今日子	宮崎 晶子
(国語科)	溝田重沙美	西本 溪	情報文化教育課程	安田 知世	山口 葵
柴田 桜子	三山 真代	内田菜美子	(メディア)	松原 明央	山下 りあ
田中 由香	渡辺しずか	小牟田弘子	馬 賢鳴	(クロス)	山本 仁美
都留 彩香	(社会科)	高橋千恵子	杉本 皓平	伊藤咲千子	横尾真利子
原田 真弓	岡元 浩平	中殿めぐみ			
百武 将	佐竹 茜	橋本 萌			

平成二十四年度 評議員会報告

日時

平成二十四年六月三日(日曜日)

出席

理事・評議員(委任状の提出、二十八名) 監事・幹事・顧問を含め六十二名出席

第一号議案「役員の改選」

・「幹事」嘉松 弘一郎先生が転勤により幹事を辞任され、新たに安部 和隆先生が就任された。

第二号議案「二十三年度の事業報告・決算報告」

(1)事業報告

・平成二十四年四月 準会員、終身会員への入会案内送

・会報の発行(年二回)

主題「我が校の教育課程の改善と実践」を掲げ各校の現状を発表していただいた。

第一二七号(十七ページ) 八千

第四百部、十月一日発行

第一二八号(十八ページ) 八千

第四百部、二月一日発行

・教育学部への支援
・準会員への就職等に関する指導助言。

・長崎大学原爆殉難慰霊祭への参加及び献花。

・地区懇話会の実施

二十三年十一月六日(土曜日)

諫早支部にて実施。山路裕昭学部長先生はじめ、四十九名参加。

・長崎大学全学同窓会(ホームカミングデー)への参加

第三号議案「二十四年度の事業計画・予算案」

・会報「たまごの」の発行 一二九号(十八ページ)一三〇号(十八ページ)

・地区懇話会の開催(平成二十四年十月十三日 雲仙支部)

・教育学部への支援(特に学生の行事等への支援費のアップ)

・長崎大学全学同窓会との連携強化

備考 二十三年収支計算書及び二十四年度収支予算書は次のページに掲載

収 支 計 算 書

平成23年4月1日から平成24年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入 会 金 収 入	378,000	438,027	△60,027	
入 会 金 収 入	378,000	438,027	△60,027	3,000円×146名
2. 会 費 収 入	3,100,000	2,833,000	267,000	
会 費 収 入	3,000,000	2,753,000	247,000	1,000円×2,753名
終 身 会 費 収 入	100,000	80,000	20,000	5,000円×16名
3. 雑 収 入	300	63	237	
雑 収 入	300	63	237	
4. 繰 入 金 収 入	2,300,000	2,300,000	0	
繰 入 金 収 入	2,300,000	2,300,000	0	基金会計より繰入
当 期 収 入 合 計 (A)	5,778,300	5,571,090	207,210	
前 期 繰 越 収 入 差 額	450,892	450,892	0	
収 入 合 計 (B)	6,229,192	6,021,982	207,210	
II. 支出の部				
1. 事 業 費	3,410,000	3,072,383	337,617	
会 議 費	500,000	495,298	4,702	会議要項作成、招集旅費、昼食代、地区懇話会
渉 外 費	150,000	86,635	63,365	退職校長会、教師と子供の像 等
会 報 ・ 発 行 費	1,950,000	1,773,885	176,115	会報2回の印刷・発送
名 簿 整 理 費	10,000	5,000	5,000	名簿作成資料代
セ ミ ナ ー 開 設 費	180,000	176,000	4,000	講師資料代、反省会補助
学 部 ・ 準 会 員 支 援 費	280,000	162,565	117,435	長大祭、学部祭、退官教授祝賀会、卒業発表会
支 部 助 成 費	290,000	323,000	△33,000	通信費、地区懇話会
義 援 金	50,000	50,000	0	東日本大震災義援金
2. 管 理 費	2,779,192	2,705,360	73,832	
報 酬 給 与	1,440,000	1,440,000	0	職員報酬
法 定 福 利 費	0	0	0	労働保険料
交 通 旅 費	270,000	252,540	17,460	交通費
事 務 用 品 費	100,000	108,522	△8,522	コピー用紙、トナー交換、年賀状
消 耗 品 費	20,000	8,072	11,928	お茶、灯油
借 料	460,000	452,310	7,690	家賃、機器レンタル料
光 熱 水 費	130,000	113,805	16,195	電気、水道 他
公 租 公 課	71,000	71,000	0	県、市民税
通 信 費	100,000	97,821	2,179	電話、切手
会 費 徴 収 費	90,000	91,290	△1,290	会費振込料
慶 弔 費	20,000	0	20,000	祝儀、弔電
雑 費	78,192	70,000	8,192	税理事務所手数料、法務局登記、残高証明 他
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什 器 備 品 購 入 支 出	0	0	0	
4. 予 備 費	0	0	0	
5. 繰 入 金 支 出	40,000	40,000	0	退職積立金特別会計
当 期 支 出 合 計 (C)	6,229,192	5,817,743	411,449	
当 期 支 出 差 額 (A) - (C)	△450,892	△246,653	△204,239	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C)	0	204,239	△204,239	

収 支 予 算 書

平成24年4月1日から平成25年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1 収入の部				
1. 入 会 金 収 入	420,000	378,000	42,000	
入 会 金 収 入	420,000	378,000	42,000	※3,000円×200人×0.7
2. 会 費 収 入	2,900,000	3,100,000	△200,000	
会 費 収 入	2,800,000	3,000,000	△200,000	※1,000×6,000人×0.47
終 身 会 費 入 会 金	100,000	100,000	0	※5,000円×25人×0.8
3. 雑 収 入	100	300	△200	
雑 収 入	100	300	△200	
4. 繰 入 金 収 入	3,200,000	2,300,000	900,000	
繰 入 金 収 入	3,200,000	2,300,000	900,000	基金会計より繰入
当 期 収 入 合 計 (A)	6,520,100	5,778,300	741,800	
前 期 繰 越 収 入 差 額	204,239	450,892	△246,653	
収 入 合 計 (B)	6,724,339	6,229,192	495,147	
2 支出の部				
1. 事 業 費	3,610,000	3,410,000	200,000	
会 議 費	500,000	500,000	0	会議要項作成・招集旅費・地区懇話会
渉 外 費	80,000	150,000	△70,000	退職校長会・教師と子供の像 等
会 報 ・ 発 行 費	1,700,000	1,950,000	△250,000	会報2回印刷・発送
名 簿 整 理 費	10,000	10,000	0	名簿作成資料代
セ ミ ナ ー 開 設 費	170,000	180,000	△10,000	講師資料代・反省会補助
学部・準会員 支援費	150,000	280,000	△130,000	長大慰霊祭・学部祭・美、音への支援 等
公 益 事 業 費	0	0	0	
図 書 助 成 費	700,000	0	700,000	学校図書の助成
支 部 助 成 費	300,000	290,000	10,000	通信費10,000×17支部・地区懇話会
義 援 金	0	50,000	△50,000	東日本大震災義援金
2. 管 理 費	3,084,339	2,779,192	305,147	
報 酬 給 与	1,440,000	1,440,000	0	会長・職員報酬
法 定 福 利 費	0	0	0	労働保険料
交 通 旅 費	270,000	270,000	0	交通費
事 務 用 品 費	95,000	100,000	△5,000	コピー用紙・トナー交換・年賀状・西洋紙 等
消 耗 品 費	15,000	20,000	△5,000	お茶、灯油等
借 料	460,000	460,000	0	家賃・清掃費・機器レンタル料
光 熱 水 費	130,000	130,000	0	
公 租 公 課	71,000	71,000	0	県、市民税
通 信 費	100,000	100,000	0	電話、切手、送料
会 費 徴 収 費	90,000	90,000	0	会費振込料
慶 弔 費	10,000	20,000	△10,000	祝儀、弔電等
雑 費	403,339	78,192	325,147	税理事務手数料、法務局登記、残高証明
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什 器 備 品 購 入 支 出	0	0	0	
4. 繰 入 金 支 出	30,000	40,000	△10,000	退職積立金特別会計
当 期 支 出 合 計 (C)	6,724,339	6,229,192	495,147	
当 期 支 出 差 額 (A)－(C)	204,239	450,892	△246,653	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)－(C)	0	0	0	

役員紹介

平成二十四年度

敬称略

支部長・評議員

赤井 君博・上野 國博

池田 英俊

長崎支部 若杉 晴久(上長崎小学校長)

佐世保支部 山口 芳雄(OBS48)

大村支部 簡井 昌則(三浦小学校長)

諫早支部 森 秀樹(湯江小学校長)

島原支部 立花 博(第一小学校長)

雲仙支部 安藤 芳也(愛野小学校長)

南島原支部 大野 義満(口之津小学校長)

平戸支部 入口 政信(津吉小学校長)

松浦支部 田島 豊広(今副小学校長)

五島南松支部 笹山 義徳(三井樂小学校長)

東彼支部 有田 洋史(彼杵中学校長)

西海・西彼支部 柏田 正(時津小学校長)

北松支部 山田 典昭(佐々小教頭)

志岐支部 野口 慶子(筒城小学校長)

対馬支部 杉本美津廣(OBS49)

国立大学法人・小中・特別支援学校支部 山本 圭介(付属中主幹)

高等学校支部 中川 幸久(県教育委員会)

長崎支部 菅藤 大三・松尾 克久

田代 知二・松添 昇

金森 徹也

高橋あき・前田 英穂

山口 喜典

濱田 昌彦

森 秀樹

松尾 好則

杉 武侯

田中 益良

松永 勤

久保田美千代

岡村 珠樹

五島南松支部

東彼支部 藤原 正

西海・西彼支部 川口 正春

北松支部 松瀬 大高

志岐支部 豊坂 敏博

対馬支部 薦田万州生

国立大学法人・小中・特別支援学校支部 坂口 洋介・山田 勝大

高等学校支部 田川 直行・菊川 洋二

中村 敦・玉島 健二

峰 信幸・中嶋 将晴

山田 喜孝(長師二十一)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

小西 峯一(長師二十八)

一事一務一局より

地区懇話会「雲仙支部」で開催

毎回、各地区の退職された会員と、まだ現職で頑張っている会員が、共に学生時代に戻りながら、地域の教育を盛り上げようと語り合っています。地区懇話会も十回目を迎えました。地区懇話会の目的であります、「親睦を深め、交流を促進することにより、自己の向上と会の充実・発展を図る」という姿が見られ、会を重ねるごとに交流は深まり、先輩・後輩の絆を確かなものにするとともに、各地区の教育振興に寄与していると確信します。

本年度は雲仙支部で開催することになりました。会員の皆様、御出席よろしくお願ひします。

① 期日 平成二十四年十月十三日

② 場所 小浜・伊勢屋旅館

お知らせ 「長崎大学全学同窓会」開催される

「長崎大学全学同窓会」開催される

「長崎大学全学同窓会」開催される

「長崎大学全学同窓会」開催される

「長崎大学全学同窓会」開催される

会費納入のお願い

今回も会費納入についてお願いいたします。毎回お願いしているところですが、会費未納者が多く、活動資金に困窮を極めている現状です。特に一般会員の方で、長崎県公立・県立・私立学校に勤務している会員以外の、県内・県外在住の方々の納入が滞っている現状です。この窮状を御理解いただき、会費の納入を是非お願いいたします。

(1) 会費 一人年額 千円

(2) 納入期限 本年十月末日